

平成30年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江 一弘・小田中 稔・児玉 智明・佐藤 潤・高橋 直美
調査実施年月日	平成30年10月24日(水)
調査先 自治体名等	高知県高知市
調査項目	「こうちこどもファンド」について
調査目的	子どもが主体のまちづくりについて調査すること
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：330,019人(H30.4.1現在) 行政面積：309.00 km²</p> <p>2 視察内容 高知市では、「高知市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、市民のまちづくり活動を支援・促進するため3,000万円を四国銀行に出捐し民間資金も活用する公益信託として平成15年に「まちづくりファンド」を創設し市民活動を活動資金面からも支えてきた。当初、年間助成金が300万円、10年間限定でスタートしたことから、10年目を迎える平成24年度を前に成果を検証し、この事業を継続するのか中止するのかを判断するために検討委員会を立ち上げた。</p> <p>まちづくりファンドについては、資金面での支援にとどまらず、まちづくりの知識・経験豊富な運営委員からの意見などにより、活動の問題点や課題について話し合う情報交換の場となっており、共同のまちづくり推進に有益な事業と評価され継続するとともに、助成実績の1/3を「子ども」を対象とした事業が占めることから、新たに「子ども」に関する助成制度を創設することとし、子どもの主体的なまちづくり活動(体験)を支援する制度として平成24年度に「こどもファンド」を創設した。</p> <p>こどもファンドの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助成対象団体～① 18歳以下の子どもが3名以上参加していること。② 子どもをサポートする大人が2人以上いること。③ 高知市在住または在学中で、複数世帯で構成されていること。 ○ 助成対象事業～子供たちのアイデアで、住んでいる地域等をより魅力的で住みよいまちにするための活動、子どもたちの活動によって、誰かが喜んでくれる活動。 ○ 助成金額～1事業あたり20万円(10/10)まで 事業に必要な材料費・文房具代・チラシ印刷費・講師謝礼金等 ○ 審査制度 書類審査～事務局である行政の担当部署が、申請内容や助成金額について審査 公開審査～公開プレゼンテーション→子ども審査員と大人の審査員による質疑応答→審査員による協議し助成団体を決定 ○ 審査員の構成と審査基準 子ども審査員～9名以内(小中高各3名)で、子どもの視点で申請内容を審査 大人の審査員～7名以内で、子ども審査員をサポートし、公益性、発展性、意欲、手段の効率性などを審査 ○ 活動発表会～3月には1グループ5分以内での発表を行う。 ○ 財源～市が2,000万円を基金に積み立てたほか寄附金(平成24年度以降約900万円)による。 ○ 助成実績～平成30年度までの7年間で53件、934万円 ○ 事業の効果と課題～「こども」を中心としたまちづくりの活性化、将来の高知市のまちづくりを担う人材の育成、子どもにやさしい高知市の実現などの効果が挙げられる一方、葛生継続に向けたサポート、広報の仕方、年々減少している寄付の集め方が課題。

<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること等</p>	<p>今回調査した「こうちこどもファンド」は、成果でも言われているように、子どもたち自身の純粋な想いを実現するためには、父母や PTA、教員、地域の各種団体の協力が不可欠であり、協力する大人もまちづくりを考えるきっかけとなるなど、地域におけるまちづくりの活性化につながる可能性が大きい。また、事業を実施した子どもたちも自分たちの手で自分たちのまちをよくする実体験を踏まえ、コミュニティ能力やふるさとに対する愛着心を芽生えさせることに繋がる、本市としても取り組むべき素晴らしい取り組みであると感じた。</p>
-------------------------------	---